

みんなのために

御津中・2 春田 明奈

私は学校の清掃の時間に図書室の清掃をしています。私が初めて学校の図書室を見たときは、とても片づいていてきれいに見えましたが、でも、そのとき私が見ていたのは主に利用者だけが使う本棚のある方でした。ふと本棚の反対側のカウンターを見ると鉛筆がころがっていたり、ファイルが出されたままになっていたりしました。私はそんなちらかったカウンターを見て、とてももったいないと思いました。利用者が見えるところしか整っていなかったからです。そこで、私は利用者も図書委員会の日ともみんなが気持ちよく使える図書室を作ろうと考えました。

まず私は一番ちらかりが目立つカウンター周辺を中心に片づけました。あまりにもちらかっているカウンターの上の本やファイルにはほこりが被っていました。ファイルはカウンターの上に立てておき、本は一つ一つ拭いて本棚に戻しました。でも、まだカウンターのうへは落し物の鉛筆や日付カードが散乱していました。一日ですべて掃除して片づけるのはとても大変だったので、二日目にもやることにしました。

しかし、二日目も一日目に掃除したと思えないほどいろんなものが散らばっていました。私はそんなカウンターの上の光景を見て、思わずため息が出てしまいました。たとえ、二人や三人で一日かけて片づけたとしても、次の日や次の掃除の日には元通りになってしまふことが多かったです。図書室の掃除メンバーが何度同じところを掃除しても、きれいなのはそのときだけだということに気づきました。

図書室の掃除はカウンターだけではありません。本棚や、カウンタ

ーの裏もあります。たった十五分しかない掃除の時間ではきれいになりきれないので、どうしたらよりきれいになるか考えました。

一つ目の案は、図書室に「きれいに使いましょう」などのはり紙を貼ることです。全校が見るところに貼れば、利用者一人一人が意識して、図書室が少しづつきれいになると思ったからです。

二つ目は、図書室掃除メンバーが協力してほかの利用者の力を借りずにきれいにすることです。全校の力を使わず、私たちだけできれいを保っているという達成感が得られると思いました。欠点があることに気が付きました。それは、全校が協力して過ごしていく学校で、一尾だけが頑張っているのはふさわしくないのではないかと、ということでした。全員に協力してもらうことで、一人一人の力がつくと思います。だからこそ、みんなで協力するには、はり紙を貼ったほうがよりきれいになるし、みんなの力になると考えました。それでも、はり紙は簡単に作れるものではないので、まずは教室で「私たちは図書室をみんなで気持ちよく使えるようにしたいので、ぜひ協力してください。」

と呼びかけました。

すると、図書委員会を中心に片づけをよくしてくれるようになり、図書室がだんだんきれいになっていきました。呼びかけを始めたときはあまり効果がないように思っていました。今では私たちが掃除をする必要がないと思うほどきれいです。

最近、とてもうれしい出来事がありました。クラスメイトから、「最近図書室に行くのが楽しみになったよ。」

「きれいにしてくれてありがとう。」

と言ってもらえたのです。私は、頑張ってきたからと思う反面、その言葉がとてもうれしかったです。

図書室の掃除を始めたころの目標は、利用者、先生、図書委員会、みんなが心地よく過ごせる図書室を作り上げることでした。どれだけ掃除しても次の日には元通りになってしまうのが大変だったし、

ため息も出たけれど、あきらめずに努力したことできれいになってよかったと思います。

そして掃除をすることが私はとても好きになりました。掃除をすることで自分もいい気持ちになるし、その場所が心地いい場所になることで、使う人も気分が上がったりするという多くの利点があることを学びました。中学生になって掃除をする機会が増えたからこそ、私は多くのことを学ぶことができたと思います。時間内にきれいにするにはどうしたらいいか考えることも増えました。掃除は、一人で黙々と取り組むのはもちろん、仲間と協力することも一つの方法だと思いました。呼びかけをしたり、はり紙を貼ったりすることもきれいにするための一つの手段と言えらると思います。これは掃除に限らず、日常生活で取り組んでいる三分前着席にも生かせると思います。

集団行動が求められる学校で大切なことは、みんなで協力することだといえます。三百人全員が協力することは難しいかもしれないけれど、一人一人が意識できるといいと思います。

私はこれからも自分や利用者が心地よく過ごせる図書室を作るために、図書室の隅々まで掃除していこうと思います。